



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.9.9 No.4058

第21回 10月1日13時~2日正午(2日午後より) 国民宿舎・のさか望洋荘 定期大会を成功させよう

本定期大会に課せられた最大の課題は、一二月ダイ改に伴う大合理化攻撃との闘いをどう構築していくのかということである。貨物の動乗動を突破口とする「中長期計画」―貨物七〇〇〇人体制、東日本におけるさまざまな合理化攻撃に反撃の体制を創りあげよう！

客貨をあげて貨物合理化粉碎へ
日貨労・貨物鉄産労は、動乗動改善・「時短」合理化を全面的に受け入れ、九月二日裏切り妥結を行った。「貨物中長期計画」―貨物大合理化にむけたその攻撃の第一歩の闘いに何ら反撃することなく、唯々諾々と妥結したのである。われわれはこの裏切りを断じて許すことは出来ない。

今後、改悪動乗動に基づき、九月中旬以降、一二月ダイ改に関する労働条件の提案が予想される。

すでに概要提案では、関東を除く各支社において基地統廃合―鉄道総合部の設置が提案されている。今後、関東においても基地統廃合の攻撃がくることは間違いない。

われわれは、今一度、動乗動改善を突破口にした「中長期計画」―貨物大合理化について、これは、単に貨物だけの問題ではなく政府・運輸省の「分割・見直し」を見据えた攻撃としてしかけられてきた全JR労働者への攻撃であることを再度確認し、客貨をあげて全力で立ち向

かわなければならぬ。貨物支社と旅客支社とが共通の課題として、貨物大合理化―七〇〇〇人体制を許さず闘おう！

またも七〇〇八〇〇キロの削減！東日本合理化を断じて許すな！

また、東日本千葉支社においても、一二月ダイ改に関し、八月二五日概要提案がなされている(日刊四〇五二号、八月二九日付既報のとおり)。

内容は、またもローカル線の列車廃止・特急「あやめ」二往復の廃止をはじめ減・増トータルで七〇〇km、八〇〇kmの列車キロ減、さらに派出検査体制の見直し(津田沼、銚子、館山、鴨川派出)による要員減、交番検査体制の見直し、ATC業務体制の見直しによる要員減(幕張電車区)、技術管理業務体制の見直しによる要員減(習志野電車区)、乗務行路の見直し(全区)などとなっている。

また労働条件の提案は、九月中旬となっている。今後要員体制が明らかとなる中で、またしても要員削減となることは明らかだ。

深刻化する五五才到達者問題！
さらに今後一〇年間、JR各社の社員の約半数が五五才到達

となり、五五才原則出向の就業規則によりJRから叩きだされることとなる。しかし、五五才到達者の出向問題も会社側は、バブル景気の時は、「出向先は必ず確保する」といっていたものが、いまやその出向先すらまともでない状況である。今後急増する五五才到達者についてJR各社はどのような対応をとるのかは重大な問題である。

また、今後の要員削減攻撃、年金法改悪の動向も見据え、六〇才まで働ける労働条件の確保に向けて全力で闘わなければならない。

「分割・民営化体制」見直し！一〇万人合理化阻止に向けて全力で闘おう！

あと三年で、「JR一〇年の総括的評価」が問われることとなる。分割・民営化の破綻は、誰の目にも明らかだ。九二年運輸政策審議会答申のとおり「分割・民営化体制の見直し」―第二の分割・民営化が画策されていることは明らかである。経営体制の変更がなされる時、その犠牲は常に労働者へと転嫁される。

われわれは、そうした動向を見据え今後の運動に生かしていかなければならない。以上のようなJR一〇万人体制攻撃、分割・民営化体制見直し攻撃を見据え、第二回大会において十分な討議を行い、今後の闘いにそなえた組織体制を確立していこう！闘いの第一歩は一二月ダイ改との攻防である。第二回定期大会を全組合員の手で成功させよう！

■たたかう労働運動の新しい潮流をめざす

9.18労働者集会

★記念講演：岩井 章
★基調報告：中野 洋

